

平成 27 年 9 月 1 日

加西市議会議長 三宅利弘 様

調査研究実施報告書

会 派 名 自民の風・誠真会  
代表者名 黒田 秀一



下記のとおり行政視察を実施したので、報告いたします。

記

1. 調査年月日  
平成 27 年 7 月 15 日 (水) ～17 日 (金)
2. 調 査 先  
埼玉県戸田市、千葉県柏市、茨城県つくばみらい市 茨城県阿見町 茨城県笠間市
3. 参加者氏名  
黒田秀一 植田通孝 丸岡弘満 松尾幸宏 ※加西の新しい未来を創る政策研究会  
と合同視察
4. 研究目的及び内容  
埼玉県戸田市 (7 月 15 日 (水) 14:00～16:00)  
シティセールス戦略について (詳細は別紙)  
政策秘書室 梶山室長  
議会事務局 高橋次長  
千葉県柏市 (7 月 16 日 (木) 10:00～12:00)  
地域包括ケアシステムについて (詳細は別紙)  
UR 都市機構 内藤分室長  
議会事務局 木村副主幹  
茨城県つくばみらい市 (7 月 16 日 (木) 14:30～16:00)  
地域公共交通について (詳細は別紙)  
片庭正雄市長 高木寛房副議長  
みらいまちづくり課 斉藤課長 荒井課長補佐 藤倉係長 大久保主幹  
茨城県阿見町 (7 月 17 日 (金) 10:00～11:30)  
予科練平和記念館を活用した平和教育の推進及び地域の振興について (詳細は別紙)  
紙井和美副議長  
予科練平和記念館 坪田館長  
議会事務局 大竹さん  
茨城県笠間市 (7 月 17 日 (金) 14:00～15:30)  
筑波海軍航空隊記念館を利用した地域振興について (詳細は別紙)  
筑波海軍航空記念館 金澤事務局長、教育委員会生涯学習課 米川課長、  
入江課長補佐、生涯学習課文化振興室 綱川室長
5. 添付書類  
(1) 視察行程表  
(2) 研修資料  
(3) 写真

【シティセールス戦略について】 植田 通孝

戸田市シティセールス戦略（平成 23 年 6 月策定）

【首都に隣接 オアシス都市 憩う 育む 楽しむまち】

戸田市政策秘書室長（戸田市政策研究所副所長） 梶山 浩

I. 戸田市シティセールス閃絡策定の趣旨と概要

1. 策定の背景と目的

戸田市は、2007 年「サステナブル都市調査」において、全国第 3 位（県内第 1 位）と都市の基礎力で外部から高い評価を受けているにもかかわらず、認知度は低く魅力や住みよさが市内外に十分認識されていなかった。そこで、まちの魅力を市内外にアピールし、人や企業に関心を持ってもらい、誘致や定住を図り、将来にわたる街の活力を得るため本市のシティセールスの方向性を示し、取り組みを的確に推進するために策定。

2. 本戦略の位置づけ

第 4 次総計基本構想の将来都市像の実現に向け、本市の持つ強みや特徴＝地域資源を十分に活かし、魅力を創造し発信するシティセールス推進の手順書と位置付ける。

3. 計画期間

平成 23 年度から 27 年度の 5 年間

目標を短期間を実現するため、効果が高い取り組みを「重点プロジェクト」として位置づけ集中的に取り組む。

4. 戸田市シティセールス戦略の概要

●シティセールスを行う最終目的

人や企業を呼び込み、引き留めることにより、将来にわたりまちの活力を維持する⇒その結果、持続的・安定的な都市経営が可能となり住民福祉が向上する。

●シティセールス展開目標

戸田市が目指す都市イメージ

「首都に隣接 オアシス都市 憩う 育む 楽しむまち」

●戸田市シティセールス戦略の推進目標

認知度と都市イメージの向上

市民の誇り、愛着心の向上

●2 つの戦略

1. 様々なメディア、機会を活用した情報発信
    - (1) 戸田市の広報メディアの効果的な活用
    - (2) 新たなメディア、媒体の活用
    - (3) イベントの機会を活用した情報発信
    - (4) ターゲットエリアでのPR活動
  2. 発見！戸田市の魅力
    - (1) シティセールス推進管理体制の確立
    - (2) 多彩な人材を活用した情報発信の推進
    - (3) 戸田市を知るための学習・体験機会等の提供
    - (4) 強みや特性を生かした資源の磨き上げ
    - (5) 戸田市の新たな魅力の開発
- 4つの重点プロジェクト
- (1) 情報発信力強化
  - (2) フィルムコミッション設立
  - (3) 市のキャラクター船艇・活用
  - (4) 都市イメージ強化
    - ・水と緑と花のまちづくり
    - ・先進的な環境の取り組み
    - ・彩湖道満グリーンパークを活用した新たなイベントの開催
    - ・ボートコースを使った一般向け体験イベントの開催

以上の点に邁進し、「首都に隣接 オアシス都市 憩う 育む 楽しむまち」の構築を目指す。

## 視察報告書

◎千葉県柏市

[日 時]

平成 27 年 7 月 16 日 (木) 10:00～12:00

[視察対応者]

UR 都市機構関東団地再生業務事務所 内藤分室長

保健福祉部地域医療推進室 石原氏 (保健師)

議会事務局議事課 木村副主幹

[視察項目]

長寿社会のまちづくり (地域包括ケアシステム) について

[目的]

加西市における地域包括ケアシステムの構築と在宅医療の普及に向けての調査研究

### 1. 在宅医療推進への取り組み

#### ① 在宅医療推進の背景

- ・ 柏市の病床利用率が 85.1% (平成 23 年)
  - 近い将来、病床が高齢者でいっぱいになる恐れ
- ・ 一方、終末期に自宅療養を希望する割合が 63.3%を占める

#### ② 在宅医療の課題抽出と解決方法

- ・ 在宅医療をおこなう医師はどこにいるか
- ・ 高齢者の増加の一方、在宅医療の医師は増えるのか
  - 24 時間対応への負担、専門領域外への不安など
- ・ サービスごとにそれぞれ聞かれるのが大変
- ・ 入院していた病院の情報が在宅医療の医師に引き継がれるのか
  - 医療職、介護職それぞれがサービスを提供
    - ※介護職は医師に相談しづらい、入退院時の引き継ぎができていない、リハビリの必要性が浸透しない
- ・ 最期まで在宅は可能か
  - 状態が悪くなれば、「入院する」という概念が強い

こうしたことから、行政 (柏市) と医師会がタイアップし、多職種を巻き込んだ関係づくり、市民への啓発をおこなうことになった。

### ③ 具体的な取り組み

- ・在宅医療の負担軽減
  - かかりつけ医のグループ形成（主治医一副主治医制）
  - 在宅患者の急性増悪時における病院のバックアップ体制
- ・在宅医療をおこなう医師増、多職種連携の推進
  - 在宅医療多職種連携研修会の実施（年1回程度）
  - 主催：柏市医師会、柏市
  - 受講者：医師、歯科医師、薬剤師、病院関係者、訪問看護師、介護支援専門員、理学療法士、作業療法士、地域包括支援センター職員、管理栄養士、サービス事業所職員など
  - 平成23年6月から6回実施、約300名が受講。
- ・訪問看護ステーションの基盤強化支援
  - 多職種連携推進体制構築への支援
    - 「看護師地域連携セミナー」の開催支援
    - 対象者：看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど
    - 内容：訪問看護の講義、演習
  - 訪問看護ステーション基盤強化への支援
    - 訪問看護体験フェア、看護師復職フェアの実施、基盤強化補助金の創設など
  - 訪問看護の啓発支援
    - 紹介DVD作成、啓発フォーラムの実施など
- ・医療職と介護職の連携強化
  - 連携課題を議論、顔の見える関係づくり。5つのワーキンググループ。
  - 医療WG…医師会を中心に構成、主治医・副主治医制や病院との関係を議論
  - 連携WG…多職種連携のルールを議論
  - 試行WG…多職種連携ルールについて、具体的な症例に基づく試行・検証
  - 10病院会議…在宅医療のバックアップ、退院調整を議論
  - 顔の見える関係会議…市内の医療・介護関係者が一堂に会し、顔の見える関係を構築
- ・情報共有システムの構築
  - タブレット端末、パソコンなどで関係職種同士がリアルタイムに情報共有することで、コミュニケーションを活発化
  - 共有内容：患者の基本情報、業務帳票、処方除法、ADL（日常生活動作）評価など
- ・市民への啓発、相談・支援
  - 市民説明会、意見交換会、在宅ケア市民集会の開催
  - 在宅医療情報誌の発行、市広報の特集
- ・在宅医療を推進する中核拠点の設置
  - 柏地域医療連携センターの開設（平成26年4月～）

柏市役所保健福祉部地域医療推進室と柏市医師会・柏歯科医師会・柏市薬剤師会の事務局を置く。

## 2. 柏地域医療連携センターについて

### ① センターの役割

- ・患者が病院から在宅に戻る際の調整支援
- ・医師や多職種による在宅医療・看護・介護のコーディネート
- ・在宅医療における主治医、副主治医の研修
- ・医療・介護に関する相談、啓発

### ② 相談状況・内容

(平成 26 年度) 合計：611 件 月平均：50 件程度

受診・受療に関すること…23%

在宅医療に関すること…22% など

(相談結果)

1 回の対応で終了…80.5%

多職種によるコーディネート…10.6%

### ③ 介護保険の地域支援事業における取り組み (平成 27 年度～)

- ・在宅医療マップを市のホームページで公表
- ・在宅医療・介護多職種連携協議会の設置
- ・地域ケア会議へ医療職のアドバイザーを派遣調整
- ・「主治医—副主治医制」の構築
- ・病院のバックアップ体制の構築
- ・訪問看護ステーションの基盤強化
- ・ICTを活用した情報共有システムの運用
- ・柏地域医療連携センターで相談・多職種コーディネート実施
- ・在宅医療多職種連携研修会の開催
- ・顔の見える関係会議の開催
- ・各地区で在宅医療勉強会開催
- ・千葉県内の在宅医療連携事業を実施する自治体との意見交換

## 3. 取り組みの成果

- ① 在宅医療研修の修了者 300 人 (うち医師は 50 人)
- ② 在宅療養支援診療所 15 カ所 (H22.11) →27 カ所 (H27.3)
- ③ 訪問看護ステーション 12 カ所 (H25.4) →23 カ所 (H27.3)

- ④ 年間の自宅看取り数 53件(H22)→174件(H25)  
がんの看取りで大幅な伸び
- ⑤ 年間10人以上を自宅で看取った市内診療所  
1カ所(H23)→5カ所(H24)→8カ所(H25)
- ⑥ 多職種連携ICTシステムID発行数 689人、214事業所(H27.3)

保険者（市）と医師会が連携し、呼びかけたことにより、すべての多職種団体を網羅し、連携の枠組みが構築された。多職種の関係づくり、連携のためのルールづくりにより、在宅医療の全市への広がりを期待。

#### 4. 今後の展開

- ① 在宅医療・多職種連携の普及と定着
- ② 「在宅医療計画（仮称：柏市地域医療介護総合確保計画）」の策定
- ③ サービス付高齢者住宅の全市展開

平成22年5月14日片庭市長が公約にデマンド乗合タクシーを導入するなどを掲げ当選。以後市民アンケートの実施等を経てルート及び運行料金見直しが行われ、平成26年4月1日より下記の形態で運行されている。

つくばみらい市地域公共交通		
	コミュニティバス「みらい号」	デマンド乗合タクシー「みらいくん」
運行会社	関東鉄道(株)	市内タクシー会社(3社)
運行路線、区域	市が指定した7ルート	市内全域
運行車両	マイクロバス29人乗り(リフト付)2台	セダン型車両 1運行あたり最大2台
運行時間	午前7時10分から午後7時5分まで	午前8時から午後5時まで
運行日	月曜日から土曜日まで(12月29日から1月3日までは運休)	月曜日から土曜日まで(12月29日から1月3日までは運休)
運行回数	1日1便から3便	1時間単位での運行(最大16便)
利用料金	大人200円。小学生・障がい者100円、通学50円	大人500円。小学生・障がい者200円、(利用券)
運行費用		1日1台20000円で委託
運行経費	23,454,000	14,838,000
運賃収入	3,857,000	1,681,000
市補助金	19,597,000	13,157,000
利用者数	29,680	4,219
一人あたりの負担金	660	3,110
課題	* 利用者から運賃が高いとの苦情	* 料金が低い(往復1000円)
	* ダイヤ変更・ルート廃止への不満	* 市外へも運行してほしい
	* 利用が減っている	* 予約センターの不備がある
		* 利用者は乗降場所、個人情報事前登録の為、個人情報漏えいの可能性がある。
		* 利用券の販売所が少ない



平成 27 年 7 月 17 日（金） 10 : 00～11:30

「予科練平和記念館を活用した平和教育の推進及び地域の振興について」茨城県阿見町

予科練とは「海軍飛行予科練習生」及び制度の略称です。昭和 14 年阿見町に若いうちから基礎訓練を行って熟練の搭乗員を多く育てることを目的に設置されました。15 年間で 24 万人が入隊し、うち 2 万 4 千人が戦地に赴きました。中には特別攻撃隊で出撃した方々も多く戦死者は 1 万 9 千人にのぼりました。

館内は、予科練の制服である 7 つボタンをモチーフに 7 つの空間から構成された常設展示と館の収蔵資料などを閲覧することのできる情報ラウンジなどがあります。

**【展示の概要】**

- ① 入隊   ② 訓練   ③ 心情   ④ 飛翔   ⑤ 交流   ⑥ 窮迫
- ⑦ 特攻

以上⑦つのテーマに分かれています。

【平成 27 年 7 月 17 日 茨城県阿見町 予科練平和記念館視察】

## 1、予科練平和記念館を活用した地域振興

- ① 阿見町外また茨城県外からの来館者が多く、町の PR となっている。また、町にあるほかの施設との連携による観光振興が図られている。(あみプレミアム・アウトレット、産業観光として工場見学)
- ② 館内で土産品の販売  
予科練の街クッキー、ヤーコンドレッシング、ヤーコンマドレーヌなど
- ③ 歴史調査の成果を製本と販売  
「阿見と予科練」・「続阿見と予科練」・「海軍航空隊ものがたり」・「予科練ものがたり」・「爺さんの立ち話」

## 2、予科練平和記念館を活用した平和教育の実施

- ① 講演会 (元予科練生・戦争体験者・予科練歴史調査委員が講演者となり、記念館で実施。小学校への出向もあり)
- ② 子供向けイベント  
「読み聞かせ」・「ものしりおじいちゃんに聞こう」・「親子で楽しめる遊び」等
- ③ 音楽鑑賞会
- ④ 本の発行  
「予科練ものがたり」・「爺さんの立ち話」
- ⑤ HP に児童向けコンテンツ「よくわかる予科練」

◆町内の小中学生は入館料を無料。茨城県内小中高生の平和学習の利用時は無料

予算 (歳入)

項目	H27 予算	H26 当初予算
記念館費	33,927,000 円	29,592,000 円

予算 (歳出)

項目	H27 当初予算	H26 当初予算
計	84,272,000 円	87,145,000 円

入館者及び観覧料

	開館日数	入館者 (人)	平均 (人)	観覧料
H26	309	58,850	190	19,751,772 円
合計 (21~26 年)	1, 549	309,676	200	113,240,203 円

◎茨城県笠間市

[日 時]

平成 27 年 7 月 17 日 (金) 14:00～15:30

[視察対応者]

筑波海軍航空隊記念館 金澤事務局長

笠間市教育委員会生涯学習課 米川課長

笠間市教育委員会文化振興室 綱川室長

[視察内容]

筑波海軍航空隊記念館を利用した地域振興について

[目的]

鶉野地区都市再生整備計画の具体化に向けた調査研究

## 1. 開館までの経緯

現在の記念館建物は昭和 13 年、筑波海軍航空隊の司令部庁舎としてつくられる。戦後、県立病院の管理棟として利用されていた。また、周辺に号令台や地下戦闘指揮所、滑走路などが現存。平成 23 年 10 月、新病院がオープンしたことにより、旧司令部庁舎が映画の撮影に使用されるようになった。映画「永遠の 0」では、主人公の宮部久蔵が筑波海軍航空隊の教官という設定であり、実際に映画のロケで建物が使用された。しかし、撮影後には取り壊しされることが決まっていた。

そこで、市民団体「プロジェクト茨城」が旧司令部庁舎を観光促進・地域活性化、郷土教育、記憶の継承を目的とし、平成 25 年 12 月 20 日「筑波海軍航空隊記念館」として開館。当初、期間限定の開館であったが、わずか 2 カ月で 1 万人の来場者を達成。記念館存続を望む意見が非常に多かったことから期間延長する。8 カ月後には 5 万人が来場。平成 27 年 4 月（1 年 4 カ月後）には 10 万人が来場。

### <運営方法>

入館料：500 円（解説パンフレット付）

収入：入館料収入（大人一人：500 円）、助成金（笠間市より年間 800 万円）、協賛金

運営主体：プロジェクト茨城（地元発信の映像作品を制作する市民団体）

## 2. 効果について

多くの新聞やテレビなどに記念館が取り上げられることから、広告宣伝費はゼロ。海外メディアにも取り上げられた。「笠間市にある～」という紹介により、笠間市の知名度も上がっている。フィルムコミッション活動にも力を入れており、ドラマや映画で記念館の建物が使用される。

展示物は、笠間市が所有していた遺品なども展示しているが、記念館開館後に寄贈されたものも多く、充実を図っている。また、戦後70年を機に、ドキュメンタリー映画「筑波海軍航空隊」を製作し、学徒出陣した元特攻隊員の証言を記録する。東京や名古屋、大阪の映画館で上映。

記念館開館後、新たに「海軍のまち」としての関連グッズが生まれ、市内の飲食店でも特別メニューがつくられるなど地域振興にも大きな効果があった。記念館の公式キャラクターをつくったことにより、菓子やグッズなどのお土産品に活用されている上、子供たちにも親しみやすい工夫をしている。観光面では、笠間市と阿見町、土浦市、大洗町などの回遊も生まれ、全国から多くの観光客が記念館を含む複数箇所を訪れているとのことだった。

## 調査研究実施報告及び所感

黒田 秀一

平成 27 年 7 月 15 日 (水) 14:00～

「シティセールス戦略について」 埼玉県戸田市

### 【所感】

昭和 41 年人口は約 5 万人であったが、現在 12 万人を超えました。シティセールス展開目標が実現してきたかと思います。首都に隣接、オアシス都市、憩う、育む、楽しむまちを実現。推進にあたっては行政だけでなく地域を担う様々な関係団体、企業、NPO など連携を図りながら進める。また、持家世帯比率が加西市の場合 83.3%であるのに対し、戸田市は 45.4%である。この点はどうかと思いました。

平成 27 年 7 月 16 日 (木) 10:00～

「長寿社会のまちづくり (地域包括ケアシステム) について」 千葉県柏市

### 【所感】

東京大学・UR 都市機構と協力し、いつまでも自宅で安心した生活がおくれるまち。また、いつまでも元気で活躍できるまち。また、いつまでも元気で活躍できるまちを目指しているとのこと。そして、医療・予防・住まい・生活支援サービスが一律的に提供され、いつまでも住み慣れた地域で暮らすことが出来る社会をめざしている。生きがい就労の創成つまり農業事業、地域の食を支える食堂、学童保育事業、福祉サービス事業などの支援をする。地域包括ケアのモデル拠点の整備 (サービス付き高齢者向け住宅) 高齢者の対策が進んでいると思いました。

平成 27 年 7 月 16 日 (木) 14:30～16:00

「地域公共交通について」 茨城県つくばみらい市

### 【所感】

デマンド乗合タクシーの運行について説明があり。1 回大人 (中学生以上) 500 円、小人 200 円、障がい者 200 円。障がい者 1 名につき介助者は 1 名無料、小学生未満は無料で利用券による支払、予約が必要。毎日 2 台のタクシーが待機していることです。1 日 2 台で 4 万円の出費。一定の人つまり利用される人が決まっているとのこと。

平成 27 年 7 月 17 日 (金) 10:00～11:30

「予科練平和記念館を活用した平和教育の推進及び地域の振興について」 茨城県阿見町

### 【所感】

14歳半から17歳までの少年を全国から試験で選抜し搭乗員としての基礎訓練をするもので15年間で24万人が入隊し、うち2万4千人が戦地に赴きました。中には特別攻撃隊で出撃した方々も多く戦死者は1万9千人にのぼりました。予科練習生の貴重な資料が保存展示しており、戦史の記録を風化させることなく次の世代につたえ、命の尊さや、平和の大切さを考えるうえに素晴らしい資料館だったと思います。鶴野飛行場にも劣らぬ立派な資料館を作るための勉強になりました。

平成27年7月17日(金) 14:00~15:30

「筑波海軍航空隊記念館を利用した地域振興について」茨城県笠間市

### 【所感】

映画「永遠の0」のロケ地として有名です。戦時中は、筑波海軍航空隊の司令部として使われ、その後は県立病院の管理棟として利用されていました。この建築物から特攻が生まれたわけです。記念館は、これまでに非常に多くの新聞やテレビの広報に取り上げられ有名になりました。全国から多くの方が訪れる様になって経済効果も得ているそうです。

入館者の推移

平成25年12月開館

平成26年2月1万人達成

平成26年8月5万人達成

平成27年4月10万人達成

平成27年7月11万6,707人

茨城県における観光消費者額を算定(平成25年)

日帰り観光 5,019人 × 116,000 = 58,2204,000円

笠間市5万人とした場合 約29,1110,000円

埼玉県戸田市 会派行政視察 H27.7.15

【シティセールス戦略について】 植田 通孝

( 感 想 )

○地の利を得て、伸びゆく市には勝てない。

- ・ 新宿駅まで20分
- ・ JR埼京線開通（1985年）以降、5万人の人口増加
- ・ 転入者1万人、転出者9千人、出生数1600人、死亡者数750人
- ・ 家賃が東京より廉価、下宿する地方の学生も多い
- ・ 平均年齢39.9歳 高齢化率15.4%
- ・ 持ち家率45%（不安材料）

○『地の利は、人の和に如かず』の戦略を、加西市は採るべし

- ・ 自分の街のことは、自分で考え、自前で戦略を創り出すべし
- ・ 自分の頭で考えられる職員を育てるべし
- ・ SWOT分析により、個性ある強みとキーマンを見つけ出す

べし

以上

千葉県柏市 会派行政視察 H27.7.16 午前

【長寿社会のまちづくり（地域包括ケアシステム）について】

植田 通孝

（感想）

○柏市は、東京都心から約30kmにあり、高度経済成長を機に人口が増加し、発展したが大阪の北千里ニュータウン同様に団地が老朽化し高齢者が大半を占める豊四季台団地のリニューアルに際し、医療センターと介護センターを団地内に整備し、在宅医療の普及を推進するため病院と開業医の間でバックアップシステムを構築し、訪問診療を実施している点に感心した。

茨城県つくばみらい市 会派行政視察 H27.7.16 午後

【地域公共交通について】

植田 通孝

（感想）

○人口は加西市と同じ規模。コミバス利用者数 29,680 人、市補助金 1960 万円と市デマンド乗合いタクシー利用者数 4219 人、市負担金 1315 万円で、コミバスとデマンドタクシ



一を併行運営している。両方で1日平均110人の乗車は非効率のように感じる。もっと他にいい方法を模索すべき。

茨城県阿見町・笠間市 会派行政視察 H27.7.17

【予科練平和記念館を活用した平和教育の推進及び地域の振興】について

【筑波海軍航空隊記念館を利用した地域振興】について

植田 通孝

(感想)

○立派な記念館を建設しているが、一番印象に残っているのは、特別攻撃隊として空母や艦に突撃していった二十歳前後の若い隊員の遺書の一言一句である。極限状況の中で、両親や兄弟の平穩を願い、即ち祖国の無事を祈り命を捧げた前途有望な若者のやけに澄み切った心のさまに、涙があふれ頭を下げた。

こちらから仕掛ける戦争は、決してすべきでないが、不幸にして戦争に巻き込まれたとき、今の若者はどう行動するのであろうか。

## 調査研究実施報告及び所感

丸岡 弘満

平成 27 年 7 月 15 日（水）14:00～

「シティセールス戦略について」 埼玉県戸田市

### 【所感】

戸田市は、地の利もあり人口が増え続けている。しかし、認知度が低く都市イメージの希薄なまちでもあった。市長自らがこの人口減少社会を勝ち抜くためにトップセールスマンとして尽力し、現在の先進的な取り組みの多数を市全体の行政施策として打ち出している。また、平成 20 年に県内初の自治体シンクタンクとして設置（自治体内設置型）し、戸田市全体の政策形成能力を高め、政策を的確に実践している。恐らく、加西市においてこのような素晴らしい戸田市と同じ取り組みをしてもなかなか結果が出ないと考えるが、全てを丸投げ委託をせずに行政マンとしての誇りや個々の政策能力向上など市役所職員として真似が出来るところがたくさんあると考える。

平成 27 年 7 月 16 日（木）10:00～

「長寿社会のまちづくり（地域包括ケアシステム）について」 千葉県柏市

### 【所感】

柏市では、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指して、地域医療・介護の連携を強化し、広めるための取り組みをされている。この柏市にある地域医療連携センターは、柏市医師会、柏歯科医師会、柏薬剤師会等の関係団体と共に、柏市の地域医療・介護の発展と、市民の皆様の療養生活を支援するための中核拠点として整備された。今回は、先進地であります柏市での地域ケアシステムの概要と現地視察をさせていただき以下のように感じ、加西市においても地域ケアシステムのモデルとしても学ぶところが多くあった。また、何よりも最大の強みは、東大を中心として公団（UR）と医師会に最大限の協力を得ることによって一つにまとまり、全ての事業を全国に先駆けたモデルケースとして進めることが出来たところにあると感じた。

- ・UR と行政との協力で理想の街づくりは出来る
- ・問題は、柏市のように医師会がここまで協力してもらえるのかが決め手
- ・東大の役割が非常に大きい
- ・このモデルケースそのままを加西市並びに多くの市で取り入れるのは非常に難しい

平成 27 年 7 月 16 日 (木) 14:30~16:00

「地域公共交通について」 茨城県つくばみらい市

【所感】

高齢者や障害者など自由に利用できる移動手段を持たない方などの日常の移動における利便性の向上を図るとともに、地域の活性化及び環境に配慮したまちづくりを促進することを目的として導入されているつくばみらい市において視察研修をさせていただいた。

所感として、主にコミュニティーバスよりもデマンドタクシーの導入において以下の率直な思いをもった。また、つくばエクスプレス「みらい平駅」が出来たことによって東京（新宿へ30分）への時間・距離が縮まり、益々の利便性がアップされたことによって駅周辺の人口が急激に増えている。今回は、デマンドタクシー導入の経緯が市長口約ではあったが、確実に交通弱者が多く住む地域と市内中心部の交通が便利な地域との差が益々広がっている現状は、今すぐにも何とかしないといけない行政課題であったと感じた。

- ・段々と利用する方が決まってくる（利用者がほぼ同じ）
- ・女性の登録が多い。しかし、登録者の内、約7割は未利用となっている
- ・どうしても利用されている時間が集中してしまう
- ・帰りの予約をしたいが、何時になるかわからない問題（病院の診察時間の関係）
- ・一度に多くの人が乗合できない（今後ワンボックス型も検討）
- ・費用対効果に疑問（利用者数に対して経費が掛かりすぎている感あり）
- ・市補助額は、19,595,000円（平成26年度）
- ・市内だけでなく、市外へも行きたいが無理（国から地域公共交通としての指示あり）
- ・現在のところ期待している副時効果はわからない
- ・委託料（1日1台20,000円）の根拠は、陸運局データに基づいて決定
- ・市内4社の内3社に依頼。一日2社の車。二日出て一日休み。
- ・国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用
- ・運行システム「順風路」が活用されている（運営管理委託料：466,560円）
- ・オペレーター業務（予約センター）は、シルバー人材センターへ委託
- ・個人情報の漏えいに注意が必要（乗合のため・オペレーター・運転手等）

平成 27 年 7 月 17 日 (金) 10:00~11:30

「予科練平和記念館を活用した平和教育の推進及び地域の振興について」 茨城県阿見町

【所感】

記念館の設計におけるデザイナー及びコーディネーターの素晴らしいセンスで資料展示が大変見やすいが、会館経費や人件費に手厚い印象を受けた。また、会館建設費高がやはり議会でも問題になり、何度か当初予算から削減と見直しをしている。現在、隣接する土地にゼロ戦のレプリカを作成展示する予定（約1,000万円）であり、子供達への戦争学習

としても利用され、近隣市から観光として訪問も多くなっている。今後、加西市における平和記念館建設において大変参考になった。

平成 27 年 7 月 17 日（金）14：00～15：30

「筑波海軍航空隊記念館を利用した地域振興について」茨城県笠間市

【所感】

この記念館は、県所有の建物ではあるが、当時の司令部が置かれたそのままの状態が残されており、現在民間 NPO が館内を企画と経営（市教育委員会より補助金）しているが特徴である。また、展示には非常にこだわりを持っており、戦死者へ対しての尊厳と誇りを感じる内容となっている。展示者の熱い思いがこちらへ伝わるのが大変素晴らしいことだと感じた。

今回、映画「永遠の 0」の撮影と平和記念館として開設したことによって、地元や全国各地から色々な戦争の思いが詰まった遺品が集まりだし、これから幾度も展示内容を変更して訪問者をどんどんと増やしていきたいとのこと。我が国を守るために命を懸けて散華された人達にひとり一人の生きた証しやこれまでの人生に興味をもってもらいたいとのことだった。残念なのは、設備が非常に古くて見学するには多少の不便性を感じるが、しかし何よりも当時の様子そのままを感じることが出来るのがいい。

記念館では、独自のキャラクターを作成して PR する事によって、とても身近で親しみやすくなっている。また、そのキャラクターを使った関連グッズで記念品などの売り上げも好調で大切な収益の一つとしている。また、予算が少ないために IT を活用した PR 活動で集客力の UP と他市施設とも連携をとっているのも特徴で、現在ロケーション撮影した映画「永遠の 0（ゼロ）」が大ヒットしたこともあり、施設見学や撮影などで注目度が高くなっている。

最後に、今後の加西市の平和記念館建設においては、施設の管理と運営は NPO 法人や民間団体へ任す方が絶対に良いと今回の視察をさせていただいて強く感じたところである。

埼玉県戸田市 (7月15日(水) 14:00~16:00)

シテイセールス戦略について(詳細は別紙)

- 1、情報発信力強化プロジェクト
- 2、フィルムコミッション設立プロジェクト
- 3、市のキャラクター選定・活用プロジェクト
- 4、都市イメージ強化プロジェクト

以上の戦略を実施することにより戸田市をブランド化し人や企業を呼び込み、持続的・安定的な都市経営による住民福祉の向上を目指すのが最終目的。

最後には加西市への提言も頂き実りある視察になりました。

又埼京線で新宿まで約20分という地の利がうらやましい限りです

千葉県柏市 (7月16日(木) 10:00~12:00)

地域包括ケアシステムについて(詳細は別紙)

柏市、東京大学、UR都市機構の3者によるプロジェクトであるが、街づくりがUR都市機構が持つ、広大な敷地が利用できるのが何よりの強み。

又医師会との強固な連携による訪問診療等、各組織との連携に至るまでは苦勞されたようだ。

茨城県つくばみらい市 (7月16日(木) 14:30~16:00)

地域公共交通について(詳細は別紙)

コミバスの利用者1人あたり負担金660円はそれなりに評価できるが、デマンド乗合タクシーの3110円は効率が悪いと思う。また、利用登録者1049人の内280人しか利用されていないのも課題の一つである。

茨城県阿見町 (7月17日(金) 10:00~11:30)

予科練平和祈念館を活用した平和教育の推進及び地域の振興について

七つのテーマに分かれた記念館には、町内はもちろん県内の各小・中・高等学校の生徒が述べ1万人訪れ、現在も年間6万人弱の来館者がある。

平和教育事業の中には5つのメニューの子供向けイベントもある。

是非、鶉野飛行場跡地に戦争遺跡を活用した平和祈念館の建設を希望する。

茨城県笠間市 (7月17日(金) 14:00~15:30)

筑波海軍航空隊記念館を利用した地域振興について

筑波海軍航空隊司令部庁舎は終戦後、県立友部病院管理棟として利用され、新病院オープン後は「永遠の0」等奥の映画の撮影に使用されたことから新たな観光資源として、観光促進・地域活性化。又郷土教育・記憶の継承を目的に記念館として開館した。

平成25年12月20日開館以来、116700人の入館者があり、笠間市には訳2千900万円の経済効果があった。

しかし、県の施設となっており、空調設備、管理費等で記念館として継続出来るかは不透明とのこと。是非継続できることを祈っています。